

2社の具体的な数値例を用いて、比較しながらキャッシュフロー分析（資金収支分析）について説明せよ。

2003年度及び2004年度の岩崎電気株式会社（以下I社）と同業のウシオ電機株式会社（以下U社）のそれぞれの連結貸借対照表と連結損益計算書を参考に比較しながらキャッシュフロー分析（資金収支分析）をおこなう。

1. キャッシュフローによる収益性分析

(1)総資本営業CF比率、キャッシュ・フロー・マージン、総資本回転率

$$I \text{ 社期首総資本} = 33623 + 14413 + 3671 + 28275 = 79982$$

$$I \text{ 社期末総資本} = 26813 + 20146 + 3592 + 28275 = 78826$$

$$U \text{ 社期首総資本} = 29715 + 13344 + 749 + 105583 = 149391$$

$$U \text{ 社期末総資本} = 36538 + 14700 + 806 + 117727 = 169771$$

$$I \text{ 社総資本営業CF比率} = \frac{2881}{(79982 + 78826)/2} \times 100 = 3.63 \%$$

$$I \text{ 社CFマージン} = \frac{2881}{70498} \times 100 = 4.09 \%$$

$$I \text{ 社総資本回転率} = \frac{70498}{(79982 + 78826)/2} = 0.89 \text{ 回}$$

$$U \text{ 社総資本営業CF比率} = \frac{7970}{(149391 + 169771)/2} \times 100 = 5.00 \%$$

$$U \text{ 社CFマージン} = \frac{7970}{99082} \times 100 = 8.04 \%$$

$$U \text{ 社総資本回転率} = \frac{99082}{(149391 + 169771)/2} = 0.62 \text{ 回}$$

コメント:I社、U社ともに総資本に対する運用効率は低い。U社の方が効率が高いだけに、CFマージンも2倍と、売上高に対する創出されたキャッシュが多い。しかし、総資本回転率はI社の方が1.4回転速いため活動の高さで収益性を保っている。

(2)キャッシュ・フローによる安全性分析

$$I \text{ 社有利子負債・営業CF倍率} = \frac{(26813 + 33623 + 20146 + 14413)/2}{2881} = 16.49 \text{ 倍}$$

$$U \text{ 社有利子負債・営業CF倍率} = \frac{(36538 + 29715 + 14700 + 13344)/2}{7970} = 5.92 \text{ 倍}$$

コメント:営業CFが同水準で継続すると何年で有利子負債が返済できるかを示すものであり、目標として10年とするならば、I社は16.5年となり有利子負債が多すぎる状態であり

安全性評価に問題がある。一方 U 社は 10 年以内であり、安全性に問題はない。

(3) 営業 CP 対流動負債比率, 営業 CP 対固定負債比率

$$\text{I 社営業 CP 対流動負債比率} = \frac{2881}{(26813 + 33623)/2} \times 100 = 9.53 \%$$

$$\text{U 社営業 CF 対流動負債比率} = \frac{7970}{(36538 + 29715)/2} \times 100 = 24.06 \%$$

$$\text{I 社営業 CF 対固定負債比率} = \frac{2881}{(20146 + 14413)/2} \times 100 = 16.67 \%$$

$$\text{U 社営業 CF 対固定負債比率} = \frac{7970}{(14700 + 13344)/2} \times 100 = 56.84 \%$$

コメント：短期的支払能力においては、U 社は I 社の 14.53% も高い。長期債務の返済能力でも U 社は 32.78% も高く、U 社の無利子負債の多さが原因である。

(4) キャッシュベースのインタレスト・カバレッジ・レシオ

2003 年 3 月

$$\text{I 社} = \frac{4540}{452+17} = 9.68 \quad \text{U 社} = \frac{13305}{295+333} = 21.19$$

2004 年 3 月

$$\text{I 社} = \frac{2881}{731+68+6} = 3.58 \quad \text{U 社} = \frac{7970}{263+249+154} = 11.97$$

コメント：両社共キャッシュベースのインタレスト・カバレッジ・レシオは低下しており、金融費用支払能力は低下している。

(5) 投資・営業 CF 比率

2003 年 3 月

$$\text{I 社} = \frac{-1498}{4540} \times 100 = -33.00 \quad \text{U 社} = \frac{-6521}{13305} \times 100 = -49.01$$

2004 年 3 月

$$\text{I 社} = \frac{-1462}{2881} \times 100 = -50.75 \quad \text{U 社} = \frac{-9490}{7970} \times 100 = -119.07$$

コメント：両者ともに負の数字が多くなっている。将来に対する投資の余裕がない実態である。 (B)